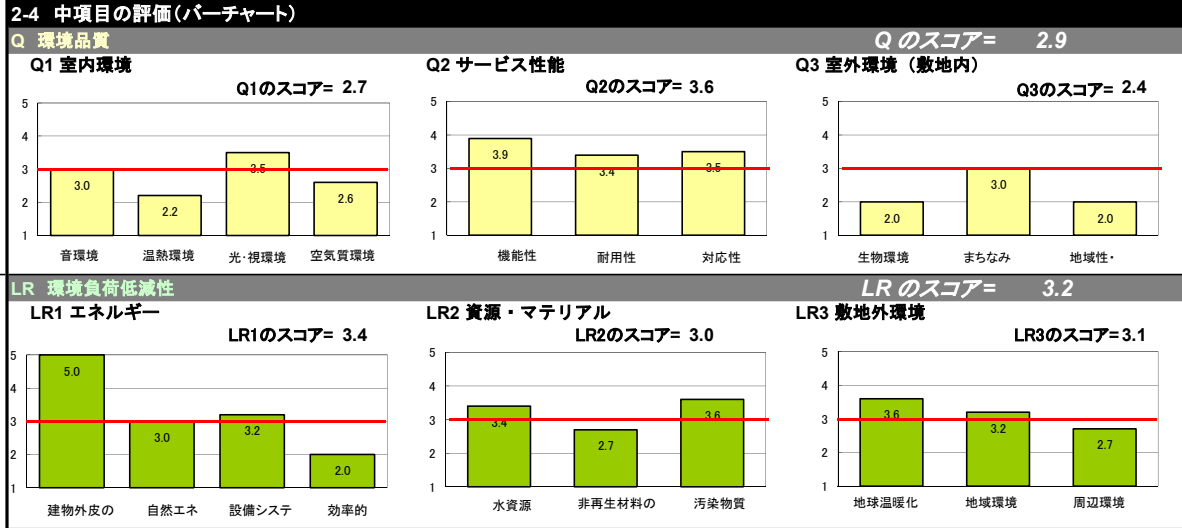
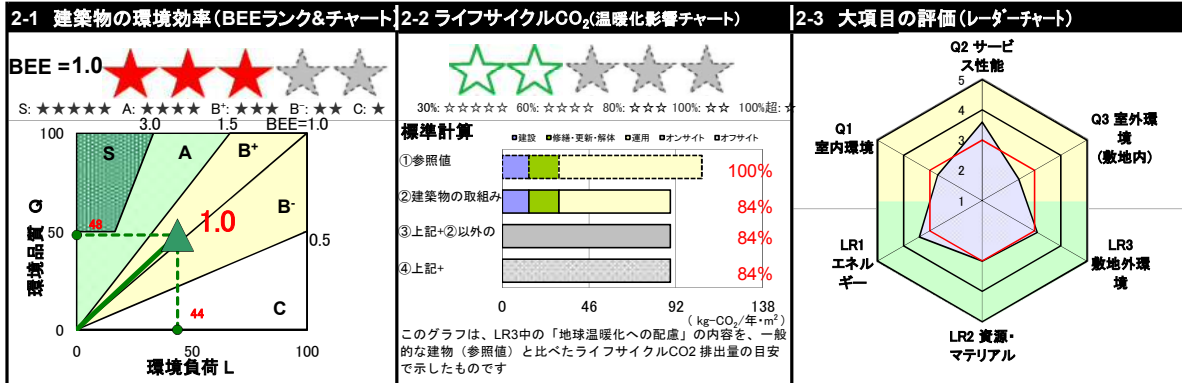


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	竹本油脂株式会社 新生産事務品	階数	地上3F
建設地	愛知県蒲郡市	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2017年8月4日
敷地面積	37,978 m <sup>2</sup>	作成者	苅谷成進
建築面積	783 m <sup>2</sup>	確認日	2017年8月4日
延床面積	2,373 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木亨



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">18.4 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>														<b>2.9</b>	
<b>Q1 室内環境</b>														<b>2.7</b>	
<b>1 音環境</b>															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
<b>2 温熱環境</b>														<b>2.2</b>	
2.1 室温制御														3.5	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														5.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														1.0	
外壁に耐火イソバンドPro、屋根にALC及びデッキコンクリートを採用															
<b>3 光・視環境</b>														<b>3.5</b>	
3.1 昼光利用														4.2	
1 昼光率														5.0	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
昼光率=800/15,000×100=5.33% ↑全天空照度は、普通の日(標準の状態)15,000lxを想定															
添付資料参照															
<b>4 空気質環境</b>														<b>2.6</b>	
4.1 発生源対策														3.0	
1 化学汚染物質														3.0	
4.2 換気														1.6	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														1.0	
3 取り入れ外気への配慮														1.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>														<b>3.6</b>	
<b>1 機能性</b>														<b>3.9</b>	
1.1 機能性・使いやすさ														3.6	
1 広さ・収納性														5.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														5.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理														4.5	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														5.0	
一人あたりの作業スペースを12㎡以上確保している															
平面図参照															
該当する取り組み項目が8ある															
該当する取り組み項目が11ある															
<b>2 耐用性・信頼性</b>														<b>3.4</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.8	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														4.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.1	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														4.0	
5 通信・情報設備														3.0	
建築基準法に定められている耐震性能に対し、25%増の耐震性能															
②															
一般配管用ステンレス鋼管及び硬質塩化ビニル管にCを使用															
②															
耐震クラスAを採用															

<b>3 対応性・更新性</b>				3.5	0.29			-	3.5
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高4m以上確保	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			(42.51 × 2 + 18.43 × 2) / 783.46 ≒ 1.56	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			PS/DS/EPSを2カ所確保している	4.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.69	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEl=0.78	3.2	0.30			-	3.2
4 効率的運用				2.0	0.20			-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.0
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型便器使用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	柱・梁はS造、壁は石膏ボードを使用している	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を選定している	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率=79%	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
2.1 大気汚染防止			該当施設無し	5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	駐輪場・駐車場確保のほか、公共機関が充実している為渋滞は少ごみを分別している	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				5.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33			-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

竹本油脂株式会社 新生産事務品質管理棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:18.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 リフレッシュルームの設置や更衣室の充実を図り、就労者にとって働きやすい環境になるよう考慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 本建物は研究施設であるため、照度及び昼光率に配慮している。また、室温も一定にして作業を行える。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一人あたりの執務スペースが12㎡以上であり、かつ通路も広く確保している。また、リフレッシュルームの設置や更衣室などの充実により、快適性に配慮をしている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 本建物の周囲は空地を十分に設け、人が安全に移動できるようにした。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 最新の省エネ機器を使用することで、BPI=0.70、BEI=0.88を確保し省エネルギー対策に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器の使用、部材の再利用向上への取り組みなどにより、限りある資源を有効活用するように配慮している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁等に遮音性能の有する材料を使用するなど、隣地への騒音の対策を考慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。